

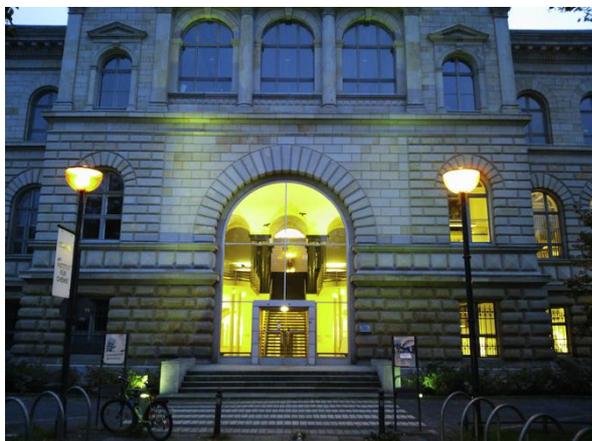
ドイツでの他分野の研究

理学系研究科化学専攻松尾研究室 博士課程2年 鈴木 毅

私は、2012年8月14日から2012年11月2日までの期間、ドイツのベルリンにあるベルリン工科大学 Matthias Driess 研究室の井上茂義先生のグループで研究を行った。この研究室はシリコン化合物をはじめとした錯体化学や有機金属化学、無機材料等の研究を行っており、私の所属する松尾研究室の有機太陽電池材料開発という研究内容とは全く異なる方向性の研究室である。当初は、これまでの研究とは異なる分野もやってみたいという軽い気持ちで留学先を決定した。

この海外研究でのテーマは「ホスファシレンを用いた 10 属金属錯体の研究」であった。この期間において私は新規ニッケル及び白金シリレン錯体の合成手法を確立し、更に白金錯体の反応中間体の構造特定を達成した。現在、これらに関する論文を執筆中である。ここでの研究では、私の所属する研究室には無い不安定なシリコン化合物の化学や、こうした化合物を取り扱うための実験技術や装置の操作法を学ぶことができた。この体験は、帰国後に新たな研究の着想を得る上で非常に役立っている。

私は博士課程1年時にこの海外派遣制度を利用した。この時期は、修士の間に知識と経験を蓄え、博士課程において新たな研究を始めようという時であり、海外に出る絶好のタイミングであったように感じる。そして、海外でこれまでとは異なるテーマについての研究を通じ、英語によるコミュニケーション能力を鍛え、同時に他分野の新たな知識を学んだ。海外の研究者とともに、海外の生活スタイルの中で、互いにディスカッションを重ねながら研究を行ったこの経験は、自身の研究を世界へ発信していこうというモチベーションの重要な引き金になったと感じている。他のコース生もこの貴重な機会を是非活用して欲しいと思う。



ベルリン工科大学 化学館



井上茂義先生とシェーネフェルト空港にて